

- ▶ 秦野市では、木材の利用を促進することで森林の循環サイクルを構築し、林業の活性化や荒廃している森林の回復を図るため、木とふれあう機会を創出するとともに秦野産木材の普及啓発を推進している。
- ▶ 多くの方に生涯を通じて木とふれあう機会をもってもらうため、出生から敬老まで、人生のさまざまな節目で木とかかわりを持てる取組を実施。

□ 事業内容

木のある暮らしづくり事業

- ・ 生涯を通して秦野の木と触れ合ってもらうため、出生届を提出した際にヒノキ玉、婚姻届を提出した際に木製ペアコースター、敬老お祝い品として木製写真立てと干支の置物を記念品として配布した。
- ・ 中学校の卒業生に秦野産ヒノキを使用した木の紙の卒業証書を授与した。
- ・ 幼稚園や保育所等にヒノキの積み木を設置した。
- ・ 公共施設やハイキングコースなどに丸太で作ったイスやベンチを設置した。

【事業費】 8,558千円（うち譲与税6,891千円）

【実績】 木製紙卒業証書 1,276枚

積み木 45セット

ヒノキ玉 1,000個

木製ペアコースター 1,200セット

敬老お祝い品 木製写真立て 45個、干支の置物 67個

丸太イス 10脚、丸太ベンチ 10台



（出産・結婚祝い品）



（木製紙卒業証書）



（広報用チラシ）

□ 取組の背景

- ・ 神奈川県産木材として市外での流通は進んでいるが、秦野産木材の流通と秦野産木材のブランド化が課題となっている。
- ・ 木とふれあう機会を創出するとともに、木材利用により森林整備を促進することで、森林観光都市を目指す。
- ・ 幼少期から森林に親しみを感じ、豊かな心を育てることを目的とした「木育」の推進を図る。

□ 工夫・留意した点

- ・ 市民生活のさまざまな場面で木とふれあう機会を創出した。
- ・ 広報用のチラシを作成し、公共施設やイベントで配布することで、市内外に事業内容を広く周知できた。

□ 取組の効果

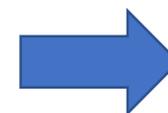
- ・ 秦野産木材の需要拡大を図ることにより、木材の利用が促進し林業の活性化や森林の整備につながる。
- ・ 子どもたちに秦野の木に触れる機会を作ることで、木育の促進につながっている。
- ・ 秦野産材の需要拡大に留まらず市のPRにつながっている。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：36,241千円	②私有林人工林面積（※1）：1,213ha	
③林野率（※1）：52.1%	④人口（※2）：162,439人	⑤林業就業者数（※2）：68人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 厚木市は、市域の約3割を森林が占め、近年、間伐材の搬出が増加している状況にある。
- ▶ 森林に対する市民や森林所有者への森林循環の啓発が必要。
- ▶ 木材利用促進に向けた市の取組のリーディング。
- ▶ 子供・子育て世帯・市民など多世代への関心。



間伐材利用 促進事業

□ 事業内容

1 間伐材利用促進事業

【事業費】12,687千円（うち譲与税9,000千円）

【実績】内装木質化公民館 1館

誕生祝い品贈呈数 705個

小学校児童机天板交換数 130枚

中学校木工室作業台交換数 15台

中学校木工室イス交換数 30脚

2 小学校木質空間づくり事業

【事業費】3,850千円（うち譲与税1,000千円）

【実績】令和8年度木質化実施のための基本設計業務委託

小学校2校

（令和7年度は実施設計業務委託 小学校1校予定）



（公民館木質化）



（誕生祝い品）



（児童机天板交換）

□ 取組の背景

児童机の天板や誕生祝い品、公共施設の内装部分など、市民が普段の生活の中で目に留まりやすいものを市内産の間伐材を使用することで、森林や木材に対する意識や関心を高めるきっかけづくりとなるような取り組みを目指した。

□ 工夫・留意した点

- ・天板の表面には、児童が紙に鉛筆で文字を書いた際、紙に穴が開かないように滑らかで固いガラスコーティングを施した。
- ・誕生祝い品の積み木には、市のマスコットキャラクター「あゆコロちゃん」の焼き印を施し、絵合わせ遊びとしても使用できるようにした。
- ・公民館の廊下には、森林循環利用をPRするため、市内産間伐材を使用した看板を設置した。

□ 取組の効果

- ・積み木を受け取った保護者からのアンケートによると、子どもの木育にも良く、親自身も森林や木材について考えるきっかけになったとの回答も多くあった。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：33,227千円	②私有林人工林面積（※1）：578ha
③林野率（※1）：28.2%	④人口（※2）：223,705人
	⑤林業就業者数（※2）：32人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

▶ 南足柄市では、令和6年度においては、以下の取組を実施。

- ・ 南足柄市立小学校2校の昇降口木質化を行い、下駄箱の完全リニューアルを実施した。
- ・ 以前に林業担い手研修を受講した方を対象としたより専門性の高い林業担い手育成研修の実施。
- ・ 公共施設木質化に活用する南足柄市産木材（一次製材）を購入・ストック。

事業内容

1 公共施設木質化事業（市立小学校2校昇降口）

- ・ 南足柄市産材ストック事業により前年度からストックした木材を用いて市立小学校の昇降口の木質化を行った。

【事業費】16,903千円（うち譲与税8,103千円）

【実績】製材使用量 17.25m³

2 林業担い手育成研修業務委託

- ・ 小さな林業の担い手の育成として、令和5年度まで行っていた都市部の副（複）業人材を活用した林業6次産業化による循環型地域づくり事業の担い手研修受講生を対象に森林踏査及び作業道メンテナンス研修を実施した。

【事業費】818千円（うち譲与税818千円）

【実績】森林踏査研修：9名

作業道メンテナンス研修：5名

3 南足柄市産木材ストック事業

公共施設木質化に活用する南足柄市木材を購入し、ストックした。

【事業費】6,457千円（うち譲与税5,855千円）

【実績】木材ストック量 20m³（一次製材）



（公共施設木質化）



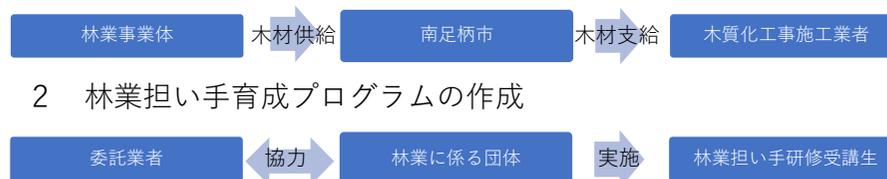
（研修の様子）



（ストック材）

事業スキーム

- 1 南足柄市産材を活用した公共施設木質化
- 3 南足柄市産材ストック事業



工夫・留意した点

- ・ 1の事業においては、市産材100%を目指してストック材を活用した施工を行った。
- ・ 2の事業においては、以前に担い手研修を受けた方に絞ることでより専門性の高い内容での研修を行った。
- ・ 3の事業においては、公共施設木質化に使用する木材を確保するため、前年度より南足柄市産材を購入、ストックを行った。

基礎データ

①令和6年度譲与額	14,776千円
②私有林人工林面積（※1）	1,545ha
③林野率（※1）	67.6%
④人口（※2）	40,841人
⑤林業就業者数（※2）	18人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

神奈川県 山北町（やまきたまち）

- 山北町では、約90%が森林面積となっており、山林所有者や管理者の高齢化が進み、山林の維持管理が課題となっている。
- 県の治山事業の対象になりにくい小規模崩落地に早期の対策が必要なため、林業者等からの情報提供をもとに土留柵を設置している

□ 事業内容

小規模土留柵設置工事

- 小規模崩落地に対して、低地にある公共施設や住居等を守るため、土留柵を設置

【事業費】 2,002千円（うち譲与税2,002千円）

【実績】 令和6年度は4か所（平山：2か所、向原、中川）で実施

□ 取組の背景

- 県の治山事業では採択されにくい小規模崩落地に対して、林業者等からの情報提供をもとに早期の対応を行うため

□ 工夫・留意した点

- 小規模崩落地に土留柵を設置し、併せて排水施設を設けることで山林側の排水を促し、土砂の流失を防止している
- 土のう積工することで、土留柵内の土砂を安定させている

□ 取組の効果

- 土留柵設置により、公共施設や民地への土砂の流失を防止している



（平山向山地区土留設置工事）



（向原地区土留設置工事）

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：23,027千円	②私有林人工林面積（※1）：1,732ha	
③林野率（※1）：88.2%	④人口（※2）：9,761人	⑤林業就業者数（※2）：56人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より